

すべてのオスプレイを飛行停止し日本への配備を撤回せよ(談話)

2023年11月30日
安保破棄中央実行委員会
事務局長 東森英男

昨日、鹿児島県の屋久島沖で米軍横田基地所属の特殊作戦機 CV22 オスプレイが墜落事故を起こしたことは極めて重大な問題です。

私たちは、今回の重大事態を踏まえ日本政府と米国に対し、東京・横田基地に配備されている同型オスプレイをはじめ、沖縄の普天間基地配備の米海兵隊オスプレイ、さらには千葉・木更津基地に「暫定配備」され佐賀空港への配備が狙われている陸上自衛隊のオスプレイを含め、すべてのオスプレイの飛行を全面的に中止するとともに、日本への配備を撤回するよう求めます。また、事故原因を早急に明らかにし、日本国民の納得できる説明を行なうよう米国と日本政府に求めます。

オスプレイは米国での開発段階から重大事故を繰り返し、多くの命を奪っており、ヘリと飛行機の機能を両方備えていることに由来する“構造的欠陥機”として世界に知られています。日本でのオスプレイ墜落事故は2016年の沖縄県名護市沖合での事故に続いて2件目です。

昨年6月、米・カリフォルニアでは乗員5人が死亡する MV22 オスプレイの墜落事故が発生し、同年8月にノルウェーで CV22 が飛行不能に陥り緊急着陸したことから、米軍は世界でオスプレイの飛行を停止し、日本でもオスプレイの一時的な飛行停止が行なわれました。しかし、米海兵隊はこの事故の報告書で「クラッチの不具合」と発表したものの、抜本的対策を講じないまま飛行を再開し、日本配備のオスプレイも飛行が再開されていました。

今回の墜落事故は、こうした中で発生したものであり、米軍と日本政府の責任は免れません。更なる事故を引き起こさせないためには、すべてのオスプレイの飛行停止と配備撤回を行なう以外にありません。

問題は、日本政府が米軍からの報告、説明を鵜呑みにして、自ら調査、点検を行なっていない態度に終始していることです。

私たちは、今回の事態を踏まえ、「日本のどこにもオスプレイはいらない」の声を高めて、全国が連携してオスプレイ配備撤回の運動を強化することを強く訴えます。

以上